

イメージアップ必要

関係団体と連携して

問 少子高齢化で人口減少は増すばかりで、そういった中ただその流れに逆らわず手をこまねいているだけでは地方の小さな町は寂れていく一方だ。

防災対策、子育て支援や福祉の充実を単に口にするだけでは前には進まない。そのために具体的に何から始めるべきか考え、まずは町の賑わいとイメージアップが必要であり、その為に交流人口を増やすことを目的としてスポーツツーリズムや

防災施策、移住施策などを町独自で推進したこと

により、多大な経済波及効果と町のイメージアップに繋がってきた。

人が集まる町は自然と経済が好転し、雇用の場も増え、連ねて一次産業

にも好影響を与えユーザー、ターナーも増加し若者が集まってくる町になってくると思う。

そうやってこそ人と人の支え合いのできる町になって高齢者福祉の充実や子どもたちの夢をかなえる子育て環境の確立ができる町になると思う。

以前は他の自治体の前例ばかり気にして、風見鶏のごとく補助金ありきの施策が多くて魅力の感じられない町だったが、今はスポーツ施設や防災、その他特色を生かした独

自の施策を打ち出しているからこそ、この町が他から見て元気な街に見えるイメージアップに繋がって移住希望も増え、子どもたちもこの自然を魅力に感じて自分の故郷に誇りを持てるようになってきているのではないかと思う。

この提言を忘れず、これからの町の活性化に繋がってほしいと思うが、どう考えるか。

答 松本町長

スポーツツーリズムは特に目標としてきた1万5千泊にほぼ近寄った。コロナ禍の中で近寄ったということは本当にすごいことだ。

移住促進においては社会増減が、平成30年以降の4年ぶりの15人の社会増、これは私が町長になってこんななうれしい事はないぐらいの情報だ。そういった成果が一つ一つ形としてできてきたということは、本当にこのまちづくりにとって大

事なことだと思っている。こんなことをやろう、こんなことしたらいいねという意見もたくさんあるが、やはりそのことを形にして、実行していきそして実績を出す。

「空想（もうそう）をカタチにするまち」という言葉で、私が皆さんと一緒に作っていききたいわけだが、そういう形にするということは非常に説得力が出てくるので、今後町政を進める上で様々な課題を解決するときに一つ一つを形にする、突破力というものを職員にもつけていきたいと思っている。

またもう一つここで述べておきたいのは、そういうことを推進するにあたって、行政だけではできないことを、例えばスポーツ合宿であれば、NPO 砂美術館や観光ネットワークの人達が、最先端の現場で対応してきてくれていて、合宿に来る、様々な監督、コーチと話した時に、スポー

ツ施設に関していうと、この町の施設はけっこう抜きん出ているが、ここに関わってくれる人たちがスポーツのことを理解して対応してくれている。こういう所は少ないと評価して頂いている。

そういった関係団体組織との連携を大事にしながら、今後もまちづくりを進めて、いろいろな課題を形にしていかなければならないと思っている。



新潟アルビレックスの歓迎式典(3月11日、大方球場)

こまつ たかとし
小松 孝年 議員